

千刈狸の呟き

COVID-19の終息はまだまだ先のことになりそうである。県内でも決して少ないとは言えない感染者が発生している。診療に当たられた同業各位には、労いと感謝を申し上げたい。又、A氏はCOVID-19に関する最新の知見を収集し、わかりやすくまとめて会報に掲載し、吾狸等に情報を提供してくれている。大変貴重な仕事であり、感謝したい。氏はインフルエンザについても毎年勉強・研究されて、興味深く、役に立つ情報を発表されており、この事も併せて敬意を表する次第である。

翻って我身を省みるに、つくづくと怠け者であると呆れるのである。反省しているのではない。机に向かい本を読むことは好きである。暇があれば活字を追っている。ただ追っている活字が、学術論文ではなく、興味と関心の趣くままの乱読であることに怠け者を自覚し呆れるのである。先日、同期の狸が「漢方のはじまり」と題する講演を聴く機会があった。難解な中国の文献にあたり、知られることの少ない漢方医学の期限について噛み砕き解説してくれたものである。その旺盛な探究心とまとめあげる能力には脱帽するしかない。吾狸にとって読みたい本のテーマはいくつかある。そのひとつは日本の近現代史である。しかし、研究するのではなく、職業として一次資料にあたり文献を渉猟し新しい事実を発見し、知見を公表するためではないので、ある意味幸せな読み散らかしなのである。直近に読了した本と、途中の本について、とてもおもしろく、又考えさせられたので紹介したい。

秋田市在住の探検家・高橋大輔氏の最新作「劔岳一線の記」。これは新田次郎の「劔岳一点の記」を承けての作品である。「点の記」に残された謎、劔岳は明治期以前に山頂に錫杖頭と鉄剣を残して行った何者かに既に登頂

～ 秋に想う ～

読書狸

されていた。一体いつ誰がの問いに、著者が山岳修験の歴史的考察から、そして実際にいくつかの登山ルートを文字通り探検し、解き明かして行く記録である。劔岳は吾狸が大学6年の夏、同期のA君、Y君と登った思い出深い山であり、又「点の記」も読み、映画もみていたので、とてもおもしろく、没頭できた読書であった。高橋大輔氏とは以前吾狸の関係する会で「ものがたりを旅する」と題して講演していただいた事があり、又氏の義父とも親しくさせていただいていることもあり、何だか誇らしい気持ちでもある。

今ひとつ紹介したいのが沖縄タイムズ社刊の「風刺マンガで読み解く米軍占領下の沖縄」と同じく「金平茂紀の新・ワジワジー通信」である。前者は本土復帰前の米軍政下の島民の苦悩と米軍基地建設のための土地収容をめぐる島民の戦いを地元2紙に掲載された風刺マンガで振り返るものである。後者は現在の沖縄で進められている基地建設と米軍による事故をめぐる、米国と日本、米軍と沖縄、本土と沖縄の不平等な関係を指摘している。日本国政府は基地負担に喘ぎ、且つ危険と隣り合わせに暮らす沖縄県民に口では寄り添うと言いつつ、反対行動に対しては実力で排除し、粛々と工事を進めている。このような現状に対しワジワジーする気持ちを沖縄タイムズ紙に寄稿した時評を一冊にしたものである。読んでみなければわからぬものがいかに多いかに気づかされる。香港に対する中国政府の仕打ちに多くの日本人は憤慨している。しかし我国における沖縄もまた香港に類似していると思わされる。著者の金平氏はTBSのニュースキャスターであり、本市のCATVに加入すると、夜のニュース番組を見ることができる。ワジワジーとは沖縄の言葉で憤懣やる方ないと言った意味であろうか？